

崎・大島・小島・鶴が島・高麗津は現在の小松である。  
粟津・片山津・軽海など枚挙に暇がないくらい水に関係がある。

下の図は手取川の流路変遷の図である。

白山からの豊かな水に加え、伏流水も多くて加賀平野を豊かな田園地帯にしてくれているが、一度暴れると洪水を起こす川でもあった。

扇中央線を見て戴きたい、石川郡と言う名の通り、洪水の後には必ず大量の砂利を残す川で、その時代ごとに川の底が埋められ、所謂「天井河」になってしまった。

研究によれば、どんぼり川は、室町時代・戦国時代や鎌倉時代の流路であったし、大慶寺川や長島川は寧ろ平安時代の流路であったと言われている。

現在の手取川は、前田藩政の初め頃・元和の頃だと言われているが、上流で『川落とし』と呼ばれる、流路変更の工事が行われた後に大洪水が起って、それを知らない下流の「熊田村」が一挙にして流され、村全体と共に、式内社であった、熊田神社が流されてしまったと伝えられている。

従って、現在の手取川は、歴史始まって以来の南限に位置しているようになった。

これは今後福島の度重なる洪水禍の上で忘れられない事件であった、事を銘記すべき事である。

手取川流路変遷図

